

活動テーマ

私たちの未来に向けて、

さぐろう、つくろう、ひろげよう

実践事例について

愛北小の子どもたちは、菜の花館の方々を始め、身の周りの豊かな自然やたくさんの人や施設とつながって体験活動を行ったり、地域の福祉施設と協力し合ったりしている。自分の生活をふり返りながら、より実践的な活動・実践的な活動へと、取り組みを広げている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置している。近くには湖東三山の1つ「百済寺」があり、歴史と豊かな自然に囲まれた地区にある。

地域では兼業農家が多く、米、野菜の他にも地域の地形や気候を生かした、ぶどうや梨、スイカなどの栽培がさかんに行われており、本校児童もその栽培の一端を実際に畑に行き、学習させてもらっている。

愛東地区で行われている菜の花館『菜の花エコプロジェクト』は全国的にも有名である。また、環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る『環境こだわり農業』や『ゆりかご水田』などの推進にも力が注がれている。現在では、愛東エコプラザ「菜の花館」を拠点にして、資源循環型の地域作りが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 廃油を使ってエコ運転（4年）

愛東エコプラザ「菜の花館」の出前授業を活用し、4年生では「資源のリサイクル」について体験的な学習をしている。菜の花から菜種油を搾油できることや、使用後の天ぷら油からディーゼル燃料のBDFが精製できることを学習した後、実際に子どもたちの手でBDF精製実験を行ったり、天ぷら油からキャンドル作りに発展させたり、と多彩な学習活動を出前講師に行っていた。



廃油の精製のついでに学習

理科室での学習だけでなく、精製したBDFでカートを動かし、生活の中にある油が違う形に変えて活かせることのすばらしさや、自分たちのエコな暮らしの手がかりを知ることができた。



(2) エコ委員会の取り組み

ア 学年エコ宣言

エコ委員会では、4月の全校集会でエコ活動と呼びかけ、年間を通して、手洗い後の節水チェックや中休みや昼休みの節電と呼びかけるなど、自主的な点検活動を行い、全校にエコ意識を高めてもらえるよう、はたらきかけている。

また、各教室にはそれぞれの学年で話し合い、考えた“エコ宣言”を掲示している。

イ エコキャップ活動

児童用昇降口では、「ペットボトルキャップ集めに協力ください」という呼びかけとともに、だれにでもすぐに協力してもらえるよう、ペットボトルキャップ入れの箱を置いた。集めたペットボトルキャップは地域の福祉施設「愛東和楽」に寄付し、福祉活動に役立ててもらっている。



(3) 新聞紙で学校美化

5年の家庭科「気持ちのいい住まい方」の単元の学習においては、太陽光を取り入れる生活を見直して、カーテンの使い方を考えるようになった。また、掃除の工夫なども実践の中で学習した。掃除に着目した子どもたちは、濡らした新聞紙を撒き、ほうきで掃きとるだけでもずいぶんきれいになることを体験するだけでなく、掃除の時間にも昇降口などの掃除にこの方法を取り入れていた。「掃除が楽しくなった」との子どもたちの声も聞かれた。新聞紙の再利用については、各家庭の窓ふきなどにも使

われており、親子で環境を考えた取組がなされていたり、環境を守る会話がなされていたりしている。校区全体にエコなくらしへの意識化が広がっていることがうかがえた。

各家庭で個々にエコに努めておられるが、PTA活動としてもエコなくらしの意識化を図っていこうと活動を進めている。

3 成果と課題

活動のスタート時には担当教師による場の設定を行うことも多いが、近年、今までの活動を知る6年生の子どもたちが4月から主体的に活動自体を進めていくことができるようになってきた。このような姿が見られるようになってきたことは、学習の中で、また、家庭生活の中での会話などを通して子どもたち自身が意識したことや、子どもたちのやっつけようという思いを持つことができるようになってきたと言えよう。その後も少しずつ学校生活や家庭生活の中で子どもたちが発信していくことができるように、学びの進化をめざし、よりよい体験活動を探っている。

「エコなくらし」はこれからの未来に生きる子どもたちには必要不可欠な学びである。今年度までの学びをふり返り、子どもたちとともに課題を明らかにし、次年度に生かしていきたい。子どもたちが日常的に実践的な活動をしていけるよう仕組んでいきたい。そして、これからの暮らしの中で、さらにPDCAサイクルを意識した学習に努めていきたい。



学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp